

LEGACY
OF
SPORT
VOL. 5

専修大学社会体育研究所公開シンポジウム2012

スポーツの力を考える。 「スポーツを通じた社会開発」



元文部科学副大臣

鈴木 寛



オリンピック金メダリスト

伊調 馨



オリンピック金メダリスト

米満 達弘



オリンピック銅メダリスト

松本 隆太郎

THINK SPORT



専修大学教授

大矢根 淳



聴講無料

2012年10月29日 (月)

4、5限 (15:00-17:45延長あり)

専修大学生田キャンパス10号館10301教室

基調講演 「スポーツの持つカーロンドンオリンピックから考えるスポーツの好循環」
鈴木 寛 (元文部科学副大臣/参議院議員) <15:00-15:20>

対 談 「スポーツの持つカースポーツが復興に果たす役割」 <15:20-16:20>
鈴木 寛、大矢根 淳 (専修大学教授/災害社会学)
久木留 毅 (専修大学准教授/社会体育研究所)

シンポジウム 「スポーツの好循環—カレッジスポーツの位置づけ」 <16:35-17:45>
伊調 馨・米満 達弘・松本 隆太郎 (ロンドンオリンピックメダリスト)
鈴木 寛、佐藤 雅幸 (専修大学教授/社会体育研究所所長)

協力 大塚製薬株式会社
主催 専修大学社会体育研究所 sports@isc.senshu-u.ac.jp 044-911-1032

スポーツの力を考える。「スポーツを通じた社会開発」



2011年「スポーツ振興法」が50年振りに全面改訂され、「スポーツ基本法」が制定された。これを受けて、「スポーツを通じた」社会への様々な貢献が期待されている。2011年3月11日に起こった東日本東北大地震により我が国は大きな被災を負った。被災地における復興過程において、スポーツが果たした役割は少なくない。その中で2012年は、ロンドンオリンピックを迎え、日本代表選手は38個の史上最多のメダルを獲得し多くの国民に夢、希望そして感動を与えてくれた。今回の日本選手団への活躍は、これまでのオリンピックに向かう過程とは違った意味がある。それは、スポーツの持つ力を復興へと活かす大きな糧の役割も担っていた点である。

スポーツが持つ力は、夢や勇気そして感動を与えることは言うまでもない。さらに一步踏み込み、スポーツの持つ力を社会的な価値と捉え、伝え、レガシーとしていくことは大きな意味がある。そこで、スポーツ基本法の制定、スポーツ立国戦略の策定、さらにロンドンオリンピックに向けた強化費の大幅な増等に尽力を果たした鈴木寛元文部科学副大臣を迎え「スポーツを通じた社会開発」「スポーツの好循環」等について、当大学教員、ロンドンオリンピック出場選手らと一緒に考え、広く提言を行ってみたい。



鈴木 寛 [すずき かん] (元文部科学副大臣、参議院議員)

1964年生。灘中学・高校を経て、東京大学法学部卒業。高校時代にはサッカー神戸市一部リーグ優勝。大学卒業後の1986年、通商産業省入省。Jリーグ創設、2002年サッカー日韓ワールドカップ招致、IT政策、情報教育等に従事。慶應義塾大学SFC助教授に転身。2009年9月、文部科学副大臣に就任し、2010年6月再任。参議院文教科学委員会筆頭理事、憲法審査会幹事、超党派スポーツ振興議員連盟幹事長を務める。スポーツ基本法制定時には中心的な役割を担う。現在、中央大学大学院公共客員教授、筑波大学客員教授、大阪大学招聘教授他、2020東京オリンピック・パラリンピック招致議員連盟事務局長を務める。



大矢根 淳 [おおやね じゅん] (専修大学人間科学部教授、災害社会学)

1962年東京生まれ。1986年慶應義塾大学法学部政治学科卒。1992年同大学院社会学研究科社会学専攻博士課程単位取得満期退学。1987年未来工学研究所研究員。1989年電気通信政策総合研究所(現国際通信経済研究所)研究員。1994年防災&情報研究所研究員。1999年専修大学に着任し、2006年同教授。主な著作に『シリーズ災害と社会 復興コミュニティ論』(弘文堂)『都市社会とリスク』(共著・東信堂)『災害における人と社会』(文化書房博文堂)など。



伊調 馨 [いちょう かおり] (ロンドンオリンピックレスリング金メダリスト)

1984年6月13日生まれ。青森県八戸市出身。身長166cm、体重64kg。中京女子大学附属高等学校(現・至学館高等学校)、中京女子大学(現・至学館大学)卒。総合警備保障(ALSOK)所属。アテネオリンピック、北京オリンピックおよびロンドンオリンピック女子63kg級金メダリスト。ロンドンオリンピックで、日本人初のオリンピック3連覇を達成。



米満 達弘 [よねみつ たつひろ] (ロンドンオリンピックレスリング金メダリスト)

1986年8月5日生まれ。山梨県富士吉田市出身。身長169cm、体重66kg。山梨県立韮崎工業高等学校、拓殖大学政経学部卒。2009年陸上自衛隊入隊。陸上自衛隊朝霞駐屯地・自衛隊体育学校所属の自衛官で、階級は三等陸尉。2009年レスリング世界選手権3位、2011年の世界選手権では2位となり、ロンドンオリンピック男子フリースタイル66kg級で金メダルを獲得した。



松本 隆太郎 [まつもと りゅうたろう] (ロンドンオリンピックレスリング銅メダリスト)

1986年1月16日生まれ。群馬県邑楽郡千代田町出身。身長168cm、体重68kg。群馬県立館林高等学校、日本体育大学体育学部体育学科卒。日体大院前期課程修了。群馬ヤクルト販売所属。2010年レスリング世界選手権2位となり、ロンドンオリンピックグレコローマンスタイル60kg級で銅メダルを獲得。グレコローマンスタイルでは12年ぶりのメダル獲得となった。

佐藤 雅幸 [さとう まさゆき] (専修大学経済学部教授/社会体育研究所所長、スポーツ心理学)

1956年山形県生まれ。日本体育大学大学院修了。1988年カルガリー五輪ではアルペンスキーチームのスポーツカウンセラーを務め、1994~95年はスウェーデン・カロリンスカ研究所で客員研究員として実績を残す。松岡修造チャレンジジュニア育成コーチングスタッフ(心理サポート担当)としても活躍。『人はなぜ、負けパターンにはまるのか』(ダイヤモンド社)他多数。

久木留 毅 [くきどめ たけし] (専修大学文学部准教授/社会体育研究所、スポーツ政策・スポーツ情報戦略)

1965年和歌山県生まれ。筑波大学大学院体育研究科、法政大学大学院政策科学研究科修了。博士(スポーツ医学)。2005年専修大学に着任。日本オリンピック委員会情報・医・科学専門委員会委員、情報戦略部門部門長。文部科学省副大臣「スポーツ振興に関する懇談会」メンバー、スポーツ議員連盟新スポーツ振興法制定プロジェクトチームのアドバイザー、第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)日本代表選手団 本部長(情報戦略)などを歴任。